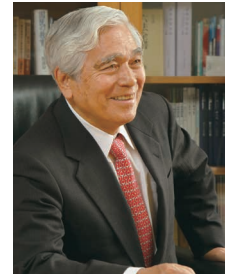




狭山ヶ丘通信

本校の実情をお知らせし、教育問題、社会問題等に関する本校校長小川義男の見解などをお読みいただくため「狭山ヶ丘通信」を発行いたしております。また、本校ウェブサイトにてバックナンバーもご覧いただけます。https://www.sayamagaoka-h.ed.jp/ 〒358-0011 埼玉県入間市下藤沢981 TEL:04-2962-3844 FAX:04-2962-0656 狭山ヶ丘学園 広報部



狭山ヶ丘高等学校
狭山ヶ丘高等学校附属中学校
校長 小川義男

情報化社会の 危険から身を守ろう

ネットで知り合った男に殺されたらしい。千葉県の高校一年の女生徒である。情報、映像をやり取りしているうちに、「百年の知己」のような錯覚に陥ったのであろう。儂いなりに抵抗を続け、果ては殺されたと言うのだから、切ない。「お母さん助けて」と叫んだであろうに。

昔のペンフレンド(文通友達)とは異なり、SNSやメッセージアプリでは、正体も分からぬうちに親しくなり、「会ってもいいかも」と思わせ、会ったら殺されるのだから、何とも耐えられぬ。

実際に会わなくとも、SNS等でメッセージのやり取りだけ行なっている学生が多いと聞く。何気ないやり取りをしていくだけで、情報を特定され、脅迫される事例も聞いたことがある。何でも気軽に出来てしまう今だからこそ、この恐ろしさを再度認識し、学校や家庭、何よりも生徒自身が弁えなくてはならない。

昔のペンフレンドなら、文書を書く上で、思考の余地、慎重さも生まれた。丁寧に便せんに文字を書き、自分の事、または相手を思いやりながら書くという行為は、今の学生からするとまどろっこしい事になるのだろう。だが、それがよかつたのかも知れない。このような悲しい事件は稀であった。

携帯やパソコンのない時代、主な通信手段は電話であった。電話は、先ず保護者が出て、胡乱な者は、話ができないのが普通であった。堅苦しいようで、それによって、子どもは守られていたのである。

私が自宅に、初めて電話を取り付けたのは、私が三十八歳の時だったと思う。私の嬉しそうな様子を見て、教え子の四年生が、電話を取り付けたその日の夕刻、電話をかけてきてくれた。その後、電話は良い役割も果たしてくれたが、振り返ると、私個人への不幸な役割もした。

家庭が一つの電話で外部と結びつき、様々な役目を担った。しかし常に、母、ないし妻が、外部からの情報を適切にコントロールした。思えば、少し昔の「幸多き日々」だったと思う。時代は本当に良い方向に向かっているのだろうか。

親も子も、この悲しい殺人事件から学ばねばならぬ。及ばぬまでも

戦った、悲しい乙女の悲運を思い、心からご冥福を祈る。

昔、「良家の子女は、日没以後出歩かない」と言う慣習があった。厳しすぎるようだが、それが意外に、守られていた。私自身も、暗くなつた後に一人で外出したりはしない。中高生、特に女子は、夜間の外出は控えた方がよい。

少し昔、深夜、車を運転して小平霊園の近くを走った事がある。明らかに、何らかの被害に遭ったと思われる高校生の女子が歩いていて、声を掛けたりできる様子ではなく、はじめは「幽霊」かと思つた。女性一人、深夜の外出が、どれほど危険かを心得て欲しい。

ネットは、全く知らぬ他人と、幾度か情報を交換したり、話したりする中で、悪意のある犯罪者をも、信頼できる人間のように誤解させがちである。

中高生は、親、家族に反発を感じる多感な時期でもあるが、そこに一つの危険がある。

特に女子は、取返しのかかぬ被害に巻き込まれる危険があるので、保護者との連絡を密にし、安全に配慮しなければならぬ。

何かで外出した場合も、必ず保護者、家族との連絡を密にし、相手に対しても、自らが常に保護者の管理下、掌握のもとにあることを明らかに

にしておかねばならぬ。

男子も、暴力事件に巻き込まれたりせぬよう心がけると共に、諸君として犯罪の被害に巻き込まれる可能性が大いにあるから、自分が、行き届いた保護者の管理下にあることを示しておかねばならぬ。かけがえのない「命と名誉」だ。賢く、賢く、自らの命と名誉を守らねばならぬ。

それにしても、現代ほど家族同士の一体感、家族愛の大切さが求められる時代はないのではあるまいか。

私が幼い頃は、家族六人が食卓に向かい、「頂きます」を言うまでは、食事をはじめのことは許されなかった。そして、食卓を離れる事ができた。

そのようにして初めて、家族の一体感が培われたと思うのである。

今回の女子高生事件も、家族の一体感希薄化の所産であるように思われてならない。

家族の一体感を形成することの大切さが痛感されるのである。保護者も、家族の一体感の育成に、もっと真剣に取り組まなければならないのではあるまいか。

夕刻、夜など、特に女子は、表道りを歩いてほしい。

現代は、犯罪に車が使われる時代である。引きずり込まれたら、そこは地獄にかわる。

用心に用心を重ねてもらいたい。

学校説明会のご案内

狭山ヶ丘高等学校・同付属中学校



「気になる」が「納得」になりました

気になる「コースのこと」、
「部活のこと」、「学校生活のこと」、
「学費のこと」…何でもお答えいたします！
当日参加も可能ですが、本校ウェブサイトで
事前予約をしていただけますとスムーズに
ご参加いただけます。ぜひ、ご来校ください！

入試対策学習法
ガイダンスが
あります！

高等学校

付属中学校

教科別の
ガイダンスが
あります

予約優先 当日参加可
受験を前に、実際にぜひ本校にご来校
いただき、雰囲気や入学後のことにつ
いて知って下さい！なお説明会のあ
とは、入試対策学習法ガイダンスや個別相談も
行っております。説明会と合わせてご参加ください。

英語は小川校長直伝！

予約優先 当日参加可
体験授業や校内見学、個別相
談など、実際に体験してい
ただき本校のことを知ってい
ただけるイベントをご用意しております。

入試に向けたポイント解説

最終回 第5回
10:00~11:30
11月19日 日

最終回 第5回
14:00~15:30
12月2日 土

高等学校個別相談会 残り2回 ※個別相談のみです。
※スクールバスの運行はありません。
事前に本校のホームページでご予約ください。(予約がなくても参加は可能です)

第2回 9:00~12:00・13:00~16:00
12月16日 土

第3回 9:00~12:00
12月26日 火

本校教員が
丁寧に対応します
主なご相談内容
●入試について
●高校生活への不安
●授業内容について
●進路について
●部活動について
●学費について

入学試験のご案内

高等学校 入試について詳しくは、本校ホームページをご覧ください。

入試方式	推薦入試	一般入試
出願期間	2023年12月4日(月)~2024年1月12日(金) インターネット出願	2023年12月4日(月)~2024年1月31日(水) インターネット出願
試験日	2024年1月22日(月)・23日(火)・24日(水)	2024年2月5日(月)

付属中学校 入試について詳しくは、本校ホームページをご覧ください。

入試方式	一般入試①	一般入試②	一般入試③	一般入試④
出願期間	2023年12月4日(月)~2024年1月8日(月)		2023年12月4日(月)~ 2024年1月11日(木)	2023年12月4日(月)~ 2024年1月31日(水)
試験日	2024年 1月10日(水)午前	2024年 1月12日(金)午前	2024年 1月16日(火)午前	2024年 2月6日(火)午前

※複数回受験割引があります(同時申込に限ります)。
※IV類(スポーツ・文化進学コース)は1月24日(水)のみです(また、同コースを受験希望の方は、事前に該当クラブ顧問との事前相談・練習参加が必須です)。

※複数回受験割引があります(同時申込に限ります)。

ご来校には公共交通機関・送迎用スクールバスをご利用ください。駐車スペースがないため、車での来校はご遠慮ください。

	乗車場	来校用	下校用
午前開催 (10時間)	入曽駅東口(西武バス折り返し所) 箱根ヶ崎駅西口(送迎バス④乗り場)	9:00・9:15・9:30 9:05・9:30	11:30から順次 [入曽・箱根ヶ崎便・入曽経由川越行便]
午後開催 (14時間)	入曽駅東口(西武バス折り返し所) 箱根ヶ崎駅西口(送迎バス④乗り場)	13:30	[入曽・箱根ヶ崎便] 15:30から順次 [入曽経由川越行便] 16:00・17:00



ご予約や資料請求は、本校ウェブサイトで!
https://www.sayamagaoka-h.ed.jp/



- ご予約は、開催日3週間前の9:00から開催日3日前の23:59まで受け付けております。
- 個別相談をご希望の方は、事前に個別相談用紙をプリントアウトし、ご記入いただきご持参ください。
- 校舎内は、上履きは必要ございません。また、昼食の販売はございません。

Web版は個人情報保護の観点から一部情報を掲載しておりません。

Web版は個人情報保護の観点から一部情報を掲載しておりません。

宿泊行事

中学2年生は1泊2日で宿泊研修を、中学3年生は3泊4日で修学旅行を実施しました。中学2年生は伊豆を訪れ、葦山反射炉やジオリア、修善寺温泉、大室山を見学しました。中学3年生は東海三県を訪れ、トヨタ産業技術記念館や関ヶ原古戦場記念館、伊勢シーパラダイス、横山展望台等、長い旅行期間を活かして様々な場所を見学しました。どちらも、現地の産業や文化、地理、歴史等幅広く学習することができたとともに、その体験が刺激となり、思い出に残る楽しい宿泊行事となりました。

中2宿泊研修 伊豆

2年●組

宿泊研修で、伊豆の修善寺に行き、葦山反射炉や大室山、ジオリアなどを見てきました。特に楽しかったのは、ジオリアで伊豆の特殊な地形の成り立ちについて学び、実際に石に触れたり実験を見たりしたこと。また、研修中に求められる集団行動について、ルーム長としてクラスをまとめるために広い視野で考えることを意識しました。そして、宿でのレクリエーションの時間や部屋での時間は、とても楽しい思い出になりました。



中3修学旅行 東海三県

3年●組

3年前とは比べものにならないほど、学びの多い修学旅行でした。印象に残っているのは伊勢神宮です。伊勢神宮はとても神聖で、威厳を感じました。また、階段を神馬の歩幅に合わせて作っていることを初めて知りました。実物の神馬もいつか見てみたいです。歴史、文化の知識を増やせただけでなく、生活面でも、責任を持って自己管理をする力を身につけられたと思います。結団式で校長先生が一生に一度だと仰っていた修学旅行、最高の思い出になりました。



高2修学旅行 沖縄で修学旅行を実施しました!

※写真は
昨年度のもの

今年度も高校2年生は、沖縄(八重山諸島・沖縄本島方面)で修学旅行を実施しました。11月9日より順次出発し、石垣島を拠点に八重山諸島で様々な体験を行うアクティビティを楽しんだり、沖縄本島では美ら海水族館や那覇国際通りでの班別研修でクラスメイトと交流を深めたりするなど、普段なかなか経験できない日々を過ごしました。



主体性と感性を育む校外学習

中学生と高校1・2年生は、社会科教育の一環で校外学習を実施しました。それぞれに長い文化や歴史に触れることができる場所を訪れ、教科書やインターネットからは得られない体験をすることで、学習を深めることができました。また、クラス内だけでなく、時にはクラスの垣根を越えた交流も生まれ、団結を深めることができました。

中1 川越

1年●組



川越には何回か行ったことがありますが、ワークシートに取り組むことで蔵造りのさまざまな特徴や仕組み、工夫などをより深く知ることができました。蔵造りを建設するのに一億円以上かかることや、建設には長い年月を要するのを知った時はとても衝撃的でした。ワークシートに苦戦しましたが、班員と協力しながら楽しく見学できてよかったです。そして最低限のマナーを守りながら校外学習を実施する大切さも学ぶことができました。

中2 東京国立博物館

2年●組



東京国立博物館は、自分自身まだ一度も行ったことのない場所で、海外の観光客の方もたくさん訪れていました。館内では、展示物を実際に見て感じる事ができ、さらに歴史への関心が深まりました。特に、埴輪や土偶、刀などは教科書でしか見たことがなかったので、とても興味深く感じました。今回の経験で新しい発見があり、より歴史を好きになることができました。

中3 鎌倉周辺

3年●組



鎌倉に行くのは今回が初めてで、事前学習のときからとても楽しみにしていました。思い出に残っているのは長谷寺です。趣のある景色の中でたくさんの写真を撮ったり、絵馬を描いたりしました。お寺の隣には、鎌倉の町を一望できるテラスもありました。帰りに鎌倉銘菓を買い、家族で楽しんで食べました。3年間の校外学習を通して学んだたくさんのことをこれからも大切にしていきたいです。

高1 高尾山

1年●組



私は、今回の校外学習で初めて高尾山に登りました。事前学習では、標高600mほどの山なので平気だと思っていました。しかし、実際に登り始めると傾斜の急な場所が多々あり、徐々に登れるか不安になってきました。それでも、友達と事前学習で学んでいた場所を見つけながら、話している間に登り切ることができました。自然豊かな景色を堪能し、達成感や登ることへの楽しさを感じることができました。

高2 鎌倉周辺

2年●組



私たち2学年は鎌倉へ校外学習に行きました。小町通りをぬけたときに見えた鶴岡八幡宮の壮大な鳥居がとても印象に残っています。また、高德院では鎌倉大仏を見るのが出来ました。実際に鎌倉大仏を見るのは初めてで、テレビなどで見る時とは違いとても大きく感じました。鎌倉に行くのが初めてだったこともあり、とても新鮮で良い経験のできた校外学習になりました。



北林 美輝人さん
 (本校 2020 年度卒 / 所沢市立北野中学校出身)
 中央大学文学部人文社会学科国文学専攻 3年

高校の学びを 大学で専門的な学問に!

大学で活躍する狭丘生



現役大学生として活躍している卒業生に、大学の様子を聞きました。

本校を2020年度に卒業された北林さんは、本校での学びをきっかけに大学では、日本語学を勉強されています。この時期、すべての学年で進路に向けて生徒たちは真剣に考えています。卒業生が、どのようにして現在の進路を決めたのか、また大学生活をどのように過ごしているのか、お話をうかがいました。

私は現在国文学専攻に所属していますが、そのきっかけは高校時代にあります。授業や先生方のお話を聞くことで国語に魅了されたのです。そして大学に進んでも学び続けていきたいと強く感じ、勉強に励み中央大学へ進むことができました。先生方にはとても感謝しています。

現在は高校在学中から興味があった日本語、とりわけ現代語の形容詞についての研究を進めています。みなさんは日常で「すご!」や「あつ!」、「やばー」と言うと思います。私はそうした現代の言葉遣いに焦点を当て、なぜ活用語尾が抜けて発話されるのか、どういふ場で現れるのかなどについて解明して卒業論文にまとめるべく、用例調査や研究を続けています。卒業論文を書くにあたってゼミに所属していますが、日本語のスペシャリストからの指導を受けることができ、とても貴重な時間を過ごせています。ゼミの仲間たちは、古典籍や雑誌のコトバ、気になっていた事柄について研究しており、私が気付かなかったことも知ることでとても



刺激を受けています。もちろん違うゼミに入れば、『万葉集』や『源氏物語』、『こころ』や『ノルウェイの森』などいろいろな文学作品や作家について研究することもできます。何をテーマにするかは自分で自由に決められます。普段の授業も多様な科目が設定されていて好きなことを

学べます。コロナが収まってきたことで部活やサークル活動にも活気が戻ってきました。他にもボランティアやアルバイトなど自分のやりたいことに時間を割けられます。大学は本当に自由な場所。この自由さこそ楽しさであり強みです。

みなさんが大学に入学すると、将来へ続く何万もの道の中から進みたい道を選び、自分の力で進んでいくことになります。ぜひ、夢や目標をもって大学生活という新たなスタート地点に立ってください。高校3年生の多くの方は試験に向けてたゆまぬ努力を重ねていると思います。みなさんが笑って次のステージへ進めるよう陰ながら応援しています。

茶道で自分の心と向き合う



本校の特色の一つとして、教育課程に茶道を取り入れることが挙げられます。本校の茶道教育は、創立者近藤ちよが、本校が目指す自己観察教育と茶道との間に共通点を見だし、昭和57年に特色教育として全生徒必修にしたことに始まります。翌年には、敷地内に数寄屋造りの茶室「悠久庵」が建てられ、本格的な実践が行われてきました。校舎改築のため、当時の悠久庵は取り壊されてしまいましたが、3号館4階に移され、現在も「悠久庵」として生徒に親しまれています。茶道は高校3年生で履修し、卒業時には茶道裏千家初級の許状を取得することができます。また、中学1年生からでも茶道に親しむことが可能です。

茶道部は悠久庵で稽古を積みながら、狭山市の稲荷山公園で行われる「さやま大茶会」にて茶席を設けたり、狭丘祭でお茶会を開いたり点前を披露したりするなど、学校内外で活動しています。



本校の茶道教育について

Q1 茶道を通して学べることや育めるものとは何でしょうか。

茶道は、ただ「茶を点て、いただく」だけのものではありません。茶道でまず重視されるのは精神です。それは「一期一会を大切に、互いに心を通わせる『服のよき茶』の精神」や「和敬清寂の精神」であり、これは、「相手のことを思ってお茶を点てる」ということになります。これを実践することで、自分自身を見つめ、心を育てることができるとともに、人を思いやる心が身につく、振る舞いも美しくなるのです。この考えは、本校の自己観察教育の三本柱として、「黙想」「対話教育」に加えて「茶道教育」が掲げられている理由になっています。

また、狭山茶の産地である入間市だからこそ、地場産業への理解を通して郷土への愛と誇りを持つとともに、国際化と言われる世の中で、日本の文化である茶道を世界の人に伝えられるように育ててほしいと思っています。

Q2 茶道の授業では、生徒はどのようなことに取り組んでいるのでしょうか。

茶道には「道・学・実」(「道」は道德心の養成、「学」は歴史や文化、作法の勉強、「実」は点前の実践)の考え方があり、茶道が重視する精神性から、それを体現する点前まで学んでいきます。その学びを通して、自己を見つめ、他者を思いやる精神を育てていきます。

中村静子先生
 本校「茶道」講師/裏千家正教授

茶道についてはこちら

